

令和7年度中国・南昌市への青少年訪問団派遣事業 事後報告書

◆名前： 若狭 朋実

江西省及び南昌市に滞在中の様子や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。

(1, 000字程度)

私は今回の訪問が初めての中国で、印象的なことばかりで刺激的な毎日でした。まずは中国の食文化です。食事の際には「少し残すことがマナー」と聞いていましたが、そんなことを気にする間もなく、毎回食べきれないほどの料理が並び、そこから中国流のおもてなしを感じました。訪問した南昌市は中国の中でも辛い料理が多い地域だそうで、実際に出てきた料理も辛さを感じるものが多かったのですが、私は辛い物が好きなので美味しく食べることができました。地元の方は「これは辛くない方だ」と言っていたので、いつか本場の“本気の辛さ”を体験してみたいです。また、街の景色にも何度も驚きました。日本にあれば観光名所になるであろう巨大な建物やモニュメントがあちこちにあり、そのスケールの大きさに圧倒されました。特に、何十階もあるような住居用のビルが同じような形で何棟も立ち並ぶ光景は、日本では見られないもので、国の規模や都市計画の違いを肌で感じました。交流会では、中国の方々が「世界に一つだけの花」を日本語で歌ってくださり、とても感動しました。自分の言語を練習してくれることがこんなに嬉しいのだと改めて気づき、私たちもダンスではありますが、中国語の曲を取り入れて良かったと思いました。これからも外国の方と交流する際は、相手の言語を少しでも学んで臨みたいと思います。お土産では、南昌市の茶工場を訪れた際に、南昌産の高級なお茶を購入してみました。狗牯脑という名称の緑茶で、帰国後淹れてみると、日本でよく見る緑茶よりも少し黄味がかかった色が特徴的で、ちゃんと苦味はあるものの、優しくて飲みやすい味だと感じました。茶葉が見慣れない形をしていたのでお茶に詳しい父に聞くと、新芽の芯の部分だけを摘み取ったものらしく、機械ではこの摘み方はできないため手作業で行っているのではないかとのことでした。実際の製法は確かめることができませんでしたが、手作業で新芽の部分だけを摘み取る手間がこの値段につながっているのかもしれない。

また今回の訪問では、自分自身の意欲につながる経験も多くできました。まず、中国語を勉強したことがあったものの、思うように話せず、特に買い物で使えるフレーズをもっと勉強しておけば良かったと感じました。ただ、その中でも知っている言葉で会話ができた時はとても嬉しく、今後の学習の大きなモチベーションになりました。さらに、今回一緒に参加した学生の皆さんと行動できたことも印象的で、年齢が離れている私にも気さくに接してくれたことが嬉しく、またそれぞれが目標を持って努力している姿にとっても刺激を受けました。社会人になってから挑戦することが減りがちでしたが、協力して発表を成功させた経験や、新しい人との出会いを通じて、多くの発見と感動を得られました。また、今回実際に訪れたことで中国を身近に感じることができ、交流会や会議で「日中友好」という大きなテーマに触れる中で、私自身がこの場に参加できていることの重みを感じました。もちろん、私一人の訪問が直接日中友好につながるわけではありませんが、体験を家族や周囲に伝えたりお土産を渡したりすることで、ほんの小さな形でも中国とのつながりを共有できます。その小さな広がり、中国のことを身近に感じるきっかけになれば嬉しいです。



高層ビルが並ぶ様子



特徴的な入口



狗牯脑



狗牯脑の茶葉